

# 高校生が歌う「ナモアミダブツ♪」

仏教に出遇えた喜びや若者の等身大の思いを込めたオリジナルソングを寺院の法要などで歌ってきた、宗門校・東九州龍谷高校(大分県中津市)の現役生徒による「NUM-NUM GIRLS」が来年3月で9年間にわたった活動を終える。新型コロナの影響で公演の機会が激減、今後も活動を続けるのは困難と判断した。全国でも稀な「高校生によるご縁づくりグループ」の最終公演を取材した。高校生たちがこの活動を通して出会ったものは何か。その歩みを連載で振り返る。

## 大分・東九州龍谷高「ナムナムガールズ」9年間の活動に幕

12月3日、福岡県築上町・長壽寺で営まれた法要に招かれてナムナムガールズが公演を行った(写真)。一般寺院での出演はこれが最後になる。

紹介のアナウンスに促され、1、2年生のメンバー5人が本堂に駆け込んでくる。学校の制服にグループ名の入ったそろいのタスキ姿が彼女たちのユニフォーム。祖父母ほど年齢の離れた参拝者80人の前に立ち、「明るく、楽しく、ナモアミダブツ〜！」と元気いっぱい声をかけると拍手がわき起こった。最初の曲は2015年に第1、2期の先輩たちが発表したデビュー曲「夏の終わりのナ

ムナムタイム」。軽やかにステップを踏みながら、「ナ・モ・ア・ミ・ダ・ブ・ツ♪」と歌いだすと会場からは大きな手拍子。笑顔の参拝者の中には、お念仏を歌う高校生の姿に感激して涙を流す人もいた。

この日はアンコールを含めて4曲を披露。歌と歌の間には、ご門主が示された「私たちのちかい」を参拝者と一緒に唱和して、「私はよく思ったことをそのまま言ったりして、相手を傷つけたりする」と自らの姿を振り返りながら、その受け止めに発表した。



ナムナムガールズは2015年、宗教科の紅椽聖教諭(49、中津市・雲西寺住職)が呼びかけ、宗教部と聖歌隊の生徒有志で結成された。同年8月に宗派が沖縄で開いた「全国高校生平和の集い」で初お披露目。その秋に「お彼岸ツアー」と銘打ち大分県内の6カ寺を巡ったのを皮切りに、県内外の寺院の法要や地域のイベントなどに多数出演。本山の伝灯奉告法要(2016年)や親鸞聖人御誕生850



参拝者と握手を交わすナムナムガールズの生徒



年・立教開宗800年慶讃法要(2023年)では御影堂でパフォーマンスを披露するなど、公演数は9年間で約150回。2019年には韓国を訪れて現地の中高校生の前でも歌った。先輩から後輩へと歌い継ぎ、仏教を発信する高校生グループとして宗門内外で活動の幅を広げてきたが、新型コロナの感染拡大を受けて、2020年は1月以降の全公演が中止になるなど活動の機会は減少していた。

最後のキャプテン・山田美菜さん(2年)は長壽寺での最終公演を終え、「今のメンバーは一般のお寺で公演するのが今日が初めて。学校の行事などで歌うのとは違う『温かさ』を感じた。本当に楽しかった」と、ご縁の喜びと学びを改めて感じていた。(次回は1月10日号)